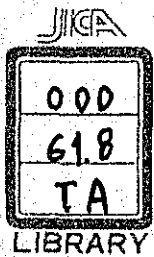


昭和39年度 都市計画集団研修
エヴァリュエーション報告書

昭和40年2月



海外技術協力事業団国内事業部

海	国際協力事業団		
受入 月日	受入 月日	PC 22	000
登録	登録No: 2506642		618 TA

序

このエバリユエーション報告書は研修員より提出されたファイナル・レポートおよび中央センターにおいて実施したエバリユエーション・ミーティングにもとづいて作成されたものである。

なお、エバリユエーション・ミーティングは下記によつて実施した。

記

1. 日 時： 昭和40年2月18日
2. 場 所： 中央センター
3. 出席者： 研修員6名

国 籍	氏 名	現 職
Philippine	Rosauro Paderon Y. Sanjuan	Regional-Urban Planner 1 National Planning Commission.
Thailand	Damrong Kisananuvat	Engineering Division Division Dept. of Country and Town Planning Ministry of Interior.
Indonesia	Fachruddin	Chief of Construction, Medan City.
Iran	Zaven Simonian	Chief, Dept. of Government Buildings Planning Ministry of Development and Hous- ing.
Colombia	Jorge E. Hoshino Toledo	Manager, Jorge E. Hoshino Toledo & Ltd, Co.

JICA LIBRARY



1011155171

国 籍	氏 名	現 職
Ecuador	Miguel Iturraldo	Head of the Technical Department Ecuadorian Housing Bank

建設省：酒 井 事務官
 研修第一課：八 坂 課 長
 神 原 職 員
 研修第二課：武 田 課 長
 室 補 佐
 八 島 職 員

(1) 研修概要

昭和39年度、都市計画コースは昭和39年11月に開始され、4ヶ月の研修期間をもつて、2月に終了した。参加研修員(東南ア、中近東、中南米)は前記6名であり、研修は、研修旅行の期間を除いて、主として、東京、名古屋の大都市を中心にしておこなわれた。

研修の主な内容は、現代日本の都市計画とそれに深い関係を有する住宅問題を結びつけ、土地調整、土地区画法、都市建設計画、交通計画、水道行政等を含む幅広いものであつた。

研修は講義及び研修旅行を中心におこなわれた。

なお、住宅問題では多少技術面も加味された。(研修プログラム参照)

以上のように、本コースでは、都市計画と、都市計画にとって不可欠な住宅問題を結びつけたところにその特色を見出せる。

(2) 研修についての研修員の所見

はじめに、本コースの参加者の一人、コロンビアのMr. Hashinoの研修参加に関して本人の「選考にあつて、彼我の間に意思の疏通が必ずしも充分になされたとはいえず、ために本コースが、自分の資格、希望に適したものと、いえなかつた」という発言がなされたが、このように、彼の場合参加する前提条件自体に問題があり、その要望等も、この前提条件に立つたものであつたため、本報告書でも別途とり扱うこととした。

研修についての研修員の一般的な感想としては、多くの研修員が、研修を通して、かなりの成果を上げ得たことに大体満足したと述べた。

特に全体的にみて、今回の研修で、都市計画と住宅問題を結びつけたことに対しては、「現代では、都市計画と住宅問題は非常に密接な関係があり、今回のようなコース構成はきわめて望ましい。」という、Simanian(イラン)の意見に代表されるように、多くの研修員はこのコースの基本方針には同意していた。

しかし、この場合二つの主題を共に満足させることはきわめて大きな努力を要することと考えられ、今回も、この両方が共に満足されたことはいえなかつたようである。これについては「住宅問題は充分であつたが、都市計画の面は、時間も短かく、必ずしも充分ではなかつた。(Iturraldo: エクアドル)」という意見に明瞭に現われている。

またコースの程度からみると「プログラム」は、全体としてオファーに提示されたものより、実際にはいく分か低いように感じられた。」(Shimonian: イラン), (Iturraldo: エクアドル)という意見があつた。

さらに、今回の研修で、最も問題となつたのは、講義が中心であり、実習が全くなかつたことに対し、多くの研修員から非常に強い不満が示めされたことである。この点については、後に詳しくふれる。

また、多くの研修員は、研修において、とり上げる都市は、各国の現状を考えれば、大都市より中小都市の方が参考になり、望ましいと述べていた。その他、O.T.O.A.のコース担当職員ともつと多く接触する機会をのぞんでいた。

なお、イランのMr. Simonianは先ず、コースを二つに分け、一つは6ヶ月の集中的な研修コースそのものとし、他の一つは4ヶ月のより高いセミナー形式とする。この二つは互に独立させ研修員を招ねく際は、最初のコースを終えて一旦帰国した者をセミナーに参加させるようにすれば、実際に、日本で行なつた研修が役立ち得るかということが測定でき、それは各国にとつても、また日本にとつても、有効なものと思う」という意見を述べていた。

{3} 研 修

1. 講 義

全般的にいつて、講義については、各研修員ともかなりの程度に満足したと述べたが、内容の個々に関しては、以下のような希望があつた。

- 多くの講義において、最初の入門部分に、多くの時間を費やしすぎたため、より深い研修に入り得なかつたことはなほだ残念であつた。
(Simonian ; イラン)
- 講師間の連絡が不十分なためいくつかの講義では内容が重複した。
(Simonian ; イラン) (Sanjuan ; フィリピン)
- あまり興味を引かない講義に多くの時間が与えられ、逆に重要と思われる講義に与えられた時間が短かく、全体的に中途半端な感があつた。
(Simonian ; イラン)
- 基本設計、都市計画に附随する立法及び法律の運用についても、とり入れてほしかつた。(Simonian ; イラン)
- もつと巾広い、経済機構、社会機構、生活習慣についても、研究したつた。結局、都市計画は以上のものと不可分の関係にあるからだ。
(Fachruddin ; インドネシア)

2. 実 習

本コースには、実習が全く行われず大多数の研修員が失望していた。この点に関して、都市計画の実習という場合、如何なる形の実習が行われるべきかについて建設省側でも、明確なものを有していないようである。

したがつて、この点について、研修員から意見を聴取したところ、次のような希望がのべられた。

- 日本の小さな一つの都市をモデルにとり、その発展過程を検討し、そこに発生する各種の問題を摘出し、その解決法を考える。
(Kisavanunat ; タイ)
- 一つのモデル・プランを設定し、これを各方面から検討し、問題点を想定し、その解決を試みる。(Sanjuan ; フィリピン)
- 一つのプロジェクトを設定し、その中で、各分野の担当者がチームを組織しマスタープランをつくり上げる。(Simonian)

大体以上が都市計画コースの実習として、研修員が希望したものであるが、いずれにしても、都市計画の実習では、一つの計画をもちそれにもなういくつかの問題を提示し、それらの現実的な解決法を求めていくものといえよう。

そして、これに対し研修員が非常に強い希望をもっていることが明らかとなった。

これについて、こちら側から、実際に製図用具等を使用して実習する用意があるのかという問に対して、各研修員とも、その用意がある旨答えた。

3. 研修旅行

本コースの研修旅行は、実習の一部としての意味があり、非常に重視された。研修員も、その効果を十分に認めていたが、同時に、よりその効果を上げるため、次のような希望が出された。

- 旅行先では、少くとも一ヶ所に三日位は止まり、できるだけ深く見学したい。
- 後の研修と関連づけるため、旅行は、できるだけ、前期に行いたい。また希節的にも暖い時期がよい。
- 見学先は、参考になるという点から、できるだけ、中小都市がよい。

4. 研修期間

研修期間に対する、研修員の意見は大きく二つに分かれた。

Kisonanunat (タイ)、Saujuan (フィリピン)は、研修量と比較して、期間の延長をのぞんだ、特にSanjuan (フィリピン)は6ヶ月～1ケ年と具体的数字を示めした。

一方、Simonian (イラン)に代表されるように「今回の経験からすれば、延長の必要はなく、むしろプログラムの組み方によつては、もつと短期間でも、十分な成果を上げ得るものと思う。」という意見があり、他の研修員はこれに同意した。また季節はもつと暖かい時期が望ましい。

という意見が多かつた。

(4) 帰国後の問題

(1) 帰国後の研修の適用について

多くの研修員は、自国の条件が、日本と非常に異なることを上げ、今回の研修が、直ちに帰国後応用できるものでないと述べている。

これは、イラン、タイ、インドネシアの研修員によつて明らかにされた。

(2) 帰国後の日本との関係について

都市計画は、性格上、長期に亘る問題が多くきわめて継続性がつよい、そのため、多くの研修員は、今後の日本側との緊密な連絡を強く希望していた。特に、日本において、何か新しい都市計画のプロジェクトが生まれた場合、それについての資料を強く要望した。また、日本において継続的に出される技術上の資料の入手にも、便宜を計つてほしいとも述べた。

二の点については、建設省の酒井事務官から建設省としてもできるだけ協力したいとの発言があつた。

(5) Mr. Hashina (コロンビア) の所感

彼に関しては最初に問題があつたことは先に述べたので、ここでは、ここでは単に氏の要望だけを記す。

コースの内容は、全体的に、期待した程高いものではなく、大学卒業者を対象としたものとしては満足なものであつた。また、オツプアー等に発表されたものよりもかなりかけ離れたものと思われる。

実習についても全くなく、期待はずれであつた。

研修についての、要望は以上のものであつたが、これは、研修の程高さを問題とした以外の点では、他の研修員と殆んど共通している。

また、帰国後、日本側と密接に連絡をとり、技術上の資料の交衡を行いたいという点でも、他の研修員と同じであつた。

以 上

都市計画および住宅問題研修コース日程表

月 日	科 目	講 師 名	記 事
11: ①	来 日		
2	"		
③	"		
4	オリエンテーション		
5	"		
6	建設省挨拶		
(7)			
⑧			
9	建研，地理院見学	建研・佐々波秀彦，地理院・池田正友	
10	公団住宅見学(赤羽台)	建築部長 本城和彦	
11	道都高速道路	工務部工務課参事 角田安一	
12	オリンピック施設見学		
13	地下鉄見学	奥田理事	
(14)			
⑮			
16	都市計画	東京大学工学部 井上 孝	
17	住宅問題	建設省住宅局住宅計画課 金子勇次郎	
18	総合計画	建設省計画局総合計画課 前田 勇	
19	工場見学	武藤工業(株)社長 武藤与四郎	
20	経済成長	経済企画庁総合計画局 丸茂明則	
25	サンウエーブ工業(株) 深谷工場見学		
24	人口問題	厚生省人口問題研究所所長 館 稔	
26	公園計画	都市計画協会，日本女子大学 金子九郎	

月 日	科 目	講 師 名	記 事
11:27	公園計画	都市計画協会 日本女子大学 金子九郎	
(28)			
(29)			
30	国土計画	経済企画庁総合開発局 下河辺 淳	
10:1	地域計画	建設省計画局地域計画課 水野 昭	
2	都市園	建設省建築研究所 佐々波秀彦	
3	都市計画論	日本地域開発センター 渡辺俊一	
4	"		
(5)			
(6)			
7	マスタープラン	日本地域開発センター 渡辺俊一	
8	新規開発	建設省研策研究所 入沢 恒	
9	工業地開発	" " 紺野 昭	
10	再開発	" 都市計画課 石川	
11	首都圏整備	首都圏整備委員会 高橋 徹	
(12)			
(13)			
14	東京都都市計画	都 首都整備局第一部長 堀内亨一	
15	" 住宅対策	" 住宅局総務部副主幹 加藤一雄	
16	水道局：東村山浄水場 小河内ダム他		
17	下水道局：清掃局		
18	都市高速道路	首都高速道路公団	
(19)			

月 日	科 目	講 師 名	記 事
12: ⑳			
21	ビル建設現場見学	合同庁舎建築現場 建設省	
22	総合研修	建設省建築研究所 佐々波秀彦	
23	自由研修	モノレール見学 齊藤	
24	交通機関	運輸省大臣官房都市交通課 運輸事務官 松村義弘	
25			
(26)			
㉑			
28	自由研修		
29	"		
30	"		
31	"		
1: 1	正月休み		
(2)	"		
③	"		
4	名古屋センターへ移動		
5	市内見学		
6	地方計画	愛知県	
7	名古屋市都市計画	名古屋市	
8	土地利用計画	名古屋市都市計画課 奥田千蔵	
(9)			
⑩			
11	公園緑地	名古屋市都市計画課 大山邦雄	
12	駐車場基準及街路計画	" 街路計画課 川本文夫, 藤原修二	
13	都市施設	" 交通局・水道局	
14	トヨタ自動車見学		
⑮			
(16)			

月 日	科 目	講 師 名	記 事
1: ⑰			
18	住宅対策	愛知県住宅課長 谷口治郎	
18	公団住宅	住宅公団名古屋支所 計画課長 長峰晴夫	
20	住宅金融	住宅金融公庫名古屋支所 次長 早川	
21	市営住宅	名古屋市住宅課長 長谷川一郎	
22	住宅団地見学		
(23)			
⑳			
25	港 湾	各港組合計画企画係長 井田義敬	
26	空 港	名古屋空港所長 田村幸彦	
27	四日市石油コンビナート 見学		
28	日本陶器見学		
29	自 由		
(30)			
㉑			
2: 1			
2			
3	研修旅行		
4			
5			
(6)			
7	帰 京	名古屋～東京	
8	研修論文作成		
9	"		
10	"		
11	"		
12	"		
(13)			

月 日	科 目	講 師 名	記 事
2: ⑭			
15	参加国都市計画とその 問題		
16	(ゼミナール)		
17	"		
18	エヴァリユエーション		
19	キヤノンカメラ(株) 玉川工場		
(20)			
⑳			
22	日立製作所足立工場 見学		
23	不二サツシ工業(株)		
24	帰国準備		
25	"		
26	"		
27	"		
28	帰 国		

()印 土曜日 自由時間, ○印 日曜, 祭日

